

2022年度事業計画

一般財団法人日本ドッジボール協会

流動的な環境に対応可能な体制の構築

● 国内の状況（1月時点）

協会内：登録数は回復傾向だが、事業の延期・中止が断続的に発生

● 全国大会を目指す小学生D1/D1Gチーム
(620チーム/+3チーム)

● 全国大会を目指す中学生以上の登録競技者
(1630名/+560名)

● 公認審判員(3930名/+260名)
● 公認指導者(3310名/+500名)

→ 2022年度からシニアチーム登録

3大会連続中止となった2019年度末～2020年度からは回復傾向ですが、2021年度も2大会を延期しており、今後の見通しは不透明な状況です。

協会外：積極的な要因と消極的な要因の混在

コロナ禍の長期化

計画的な事業の設計困難
練り直しの発生

各種イベントを経験していない層の増加

オンライン環境の加速

学校部活動の体制変化と働き方改革

一定の速度で回復すると想定していた社会活動でしたが、外部環境の予測が困難となっています。但し、視点によっては、新たな関係を構築する機会ともなっています。

また、環境変化の影響が少ない要素もあります。計画策定の起点となると考えています。

あらゆる面で全国大会は最も注目を受ける事業

充実した映像設備※アダストリアみとアリーナ

協会外も含めたドッジボール需要の把握と体系化（NFの責任）

以上の状況から、2022年度は「感染症関連等の予測困難な変動」には注意しつつ、「社会におけるスポーツの役割の変化」を見逃さない取り組みを進めます

全国大会の機会を最大限に活用する普及広報事業

- 12月女子総合選手権（前日）：茨城県子ども会育成連合会と協力し、県内全域を網羅可能なイベントを計画

※茨城県小学生13.5万人(自治体HP)

ドッジアドバイザー制度の開始（次ページ）

- シニア競技者を対象に選考の上、普及活動への関与を通じた学習の促進
 - 活用事業：2022年度は9ブロック×2会場
 - 賞品協賛：ヤマダイ（株）

加盟協会と共に企画力を育てる

経験の蓄積により、ガバナンスコードの適合へ着実に近づける

ドッジアドバイザーの理想的な成長イメージ

1、ドッジアドバイザー個人 受動的な協力者から、主体的な企画立案者への成長

- STEP 1 まずは各地の需要に応じたドッジボール教室に協力
- STEP 2 試行錯誤を重ねながら、特にエントリー層に対するアプローチ手法を身につけると共に、地域社会や環境の多様性と、そこに調和するスポーツイベントの運用を学習
- STEP 3 これまでの事例を自らの活動地域へ応用。より関係者の目的に沿った開催方法を計画。
地域全体を見渡し、他者の課題解決や目標達成を伴うアイデア創出とイベント実践

2、加盟協会／ブロック 単体の活動から、より社会と共に活動する組織への成長

ドッジボールの効果・新たな可能性の発見

支援者・競技者・指導者・審判員の増加

市町村全体への活動地域の拡大
年齢層の拡大

地域内の普及計画・構想が先に示されたうえで、ドッジアドバイザーを育てる順序が望ましい。前後しても構わないが、両方の要素が必須。

● 海外に向けた取り組み

国内の既存事業の調整が続く中、構築途上にある国際事業の優先度を上げることは困難なため、各国／種目を問わず、厳しい環境が続いています。

エジプトワールドカップ（カイロ）遠征に関する状況

2020年度末

安心できる環境が整い、新たな国際大会のスケジュールが具体化されるまで、遠征計画は一旦保留



2021年度末

WDAの調整待ち（12月中旬開催の案は出ているものの具体的な公開情報は無し）

しかしながらドッジボールに対して大きく異なる概念とルールを理解する姿勢が、多様性の尊重という世界的な流れとも重なると考える点は依然として変わりません。

講習会等のレポートからは、学習題材としても効果が出ており、また他競技との接点や、メディア等での企画としても取り上げられる回数が増加しています。

尚、国内における、マルチ種目に関する国内の審判員養成に向けた各資料の準備、及びシングル種目に関するルール抜粋版英訳の精査は、国際委員会を中心に進めています。

そこで、2022年度はマルチボールイベント（教室・体験会と審判員養成講習会）を5月下旬 岐阜県実施で調整中です。

→ 長期的には両種目での日本での国際大会開催の実現を目指します。

● スポーツ団体ガバナンスコード適合

- 初回審査は2022年度です。(修正)
- 協会の体力を考慮の限り、2022年度中に全項目を遵守するまでに至ることは困難ですが、未達の項目に関しては、達成への計画を示す段階までの進捗を目指します。

2022年度主要事業（全国大会イベント関連）

- 4つの全国大会は、全てオンライン上でも配信を計画しています。

	日程	事業	場所
①	8月21日(日)	第31回全日本ドッジボール選手権全国大会※ ● 2024年度まで同会場での開催決定	茨城県水戸市 アダストリアみとアリーナ
②	10月2日(日)	2022J. D. B. A. 全日本選手権	福岡県北九州市 北九州市立総合体育館
③	12月11日(日)	第9回全日本女子総合選手権	茨城県水戸市 アダストリアみとアリーナ
④	2023年 3月26日(日)	第32回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会	石川県金沢市 いしかわ総合スポーツセンター

※海外事業は、各団体からの連絡とその時期に応じて、可能な範囲で計画します。

④2020年度に続き、2回目の開催となります。前回はコロナ禍に伴い、開催自体を目標とせざるを得ない形でした。今回は改めて地元コミッションとの連携強化を図ります。

	参加数	予選数	
④第32回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会	48チーム 1000名	47都道府県	いしかわ総合スポーツセンター 前年度優勝チーム輩出県は+1



①③ 2024年度までの夏の全国大会は、水戸市専用コートを用いた同会場での開催が決定しています。2021年度は感染症による大会の延期に伴い、11月末の女子総合選手権との2日間連続開催となりました。大幅な調整となったものの、大型ビジョンや移動モニターも駆使した配信は、人数制限・移動制限の中で、アリーナのどこでも視聴を楽しむ環境の構築に向けた意欲的な取り組みでした。2022年度はその経験を活かし、さらに充実するよう取り組みます。

	参加数	予選数	
①第31回全日本ドッジボール選手権全国大会	48チーム 1000名	47都道府県	アダストリアみとアリーナ 前年度優勝枠輩出県は+1
③第9回全日本女子総合選手権	D1G 32チーム シニア女子16チーム 計800名	7ブロック	アダストリアみとアリーナ (前日に県子ども会連合会のイベントを計画中)

※台湾チームの来日が復活した場合は、改めて検討

②全日本選手権は福岡県での初開催となります。(2020年度の開催計画はコロナ禍により中止) 2021年度も3月に延期となったため、久々に通常のスケジュールでの開催を予定しています。また、これまでの競技者個人登録に加え、チーム登録制度も正式に開始します。

	参加数	予選数	
②2022J. D. B. A. 全日本選手権	32チーム500名	9ブロック	チーム登録開始

専門委員会単位の定例事業／会議

各委員会から登録会員向けに行う認定会・講習会・研修会はそれぞれ次のとおりです。

●指導委員会

・アシスタント指導員研修会

JSP0ドッジボールコーチ1取得指導者を対象に、指導委員と共に活動できる講師の育成

・公認指導者講習会

新たなカリキュラムでの開催と、オンライン実施の検討

(2022年度からは、D1/D1Gチーム及びシニアチームにはB級指導員資格所有者必須となります。)

●競技委員会

- ・B級公認審判員認定会 9ブロック
- ・ルールブック編集 (2023-24年度版)
- ・審判員ブロック研修会 9ブロック

主な会議体につきましては、次のとおりとなります。

●理事会6回・評議員会2回 (6月末／2月末) ・ ブロック長会議1回 (時期未定) ※

※今後の中長期的な課題についてブロック間の自主的な情報共有・制度調整の促進を目指せる構成を協議し実施

●国際団体間の会議は、いずれの団体とも開催有無を含めて調整中

各全国大会の実行委員会・専門委員会毎の会議と合わせ、内容に応じてオンラインの活用も積極的に推します。